

## 利礼航路で観察された鳥類および海棲哺乳類 (2) - 2004 年の追補 -

杉村直樹

〒 097-0011 稚内市はまなす 1 丁目 7-1-1

### Observation Records of Birds and Marine Mammals on Sea Route of the Rishiri-Rebun-Wakkanai Run (2) - Additional Records in 2004 -

Sugimura NAOKI

Hamanasu, Wakkanai, Hokkaido, 097-0011 Japan

**Abstract.** Changes and distributions of species of 36 birds and 6 marine mammals observed on sea route of the Rishiri-Rebun-Wakkanai run from June 1998 to September 2003 were reported on *Risiri Studies* No.23. This report shows species of 6 birds observed newly on this line from March to December 2004.

#### はじめに

稚内, 利尻島, 礼文島を航路で結ぶ利礼航路での鳥類および海棲哺乳類の生息状況を報告した例は少なかったことから, 筆者は 1998 年から 2003 年まで約 5 年に渡りこれらの生息概要を明らかにするため調査を実施し, その結果, 少なくとも 36 種の鳥類と 6 種の海棲哺乳類が観察されるとともに, 特にノシャップ岬沖は多くの鳥類や海棲哺乳類にとって良好な採餌場であり, 非常に重要な海域であることが確認されたことを利尻研究 23 号で報告した。2004 年についても同様の調査を 3 月から 12 月までの間に, 稚内～利尻間 18 回, 稚内～礼文間 12 回, 利尻～礼文間 2 回の合計 32 回実施した結果, 新たに 6 種の鳥類が観察されるとともに, 1 科および 1 種の鳥類について新たな知見が得られたので, その観察概要について報告する。なお, これらの新たな観察を加えた 1998 年から 2004 年までの各種の出現状況について表 1 にまとめた。

#### アビ科

#### アビ *Gavia stellata*

11 月に 2 回計 2 羽が観察された。11 月 30 日利尻 9:10 発稚内 10:50 着の便では 10:35 に嘴がやや上に反り体上面が薄い灰褐色の冬羽の個体 1 羽が観察された。この日はほかに 9:18～10:39 (鴛泊港付近～ノシャップ岬沖) に, アビと思われる個体 5 羽, オオハムかシロエリオオハムと思われる個体 107 羽, その他アビ sp. (種を特定できなかったアビ科の個体) 215 羽, 計 327 のアビ科が次々と南へ飛去するところが観察された。この日はフェリーが欠航するほどの大時化が 3 日間続いた翌日であり, 大時化によりサハリン等の周辺海域で渡りを足止めされた個体がまとまって一気に南下したためか, 前回の調査では 11 月下旬に一度も調査されておらず, たまたま大きな群の南下に遭遇したためか不明だが, これまでの調査で初めて大きな群の渡りが観察された。もう 1 回は前日の 11 月 29 日稚内 7:50 発利尻 9:37 着の便で 8:29 (ノシャップ岬沖) に南下中の個体 1 羽が観察された。この日は上記のとおり海上沖で波が 4 m 以上もある大時化で,

ほかに稚内港で1羽、ノシャップ岬沖でオオハムかシロエリオオハムと思われる個体3羽が観察された。

#### オオハム *Gavia arctica*

5月に2回計4羽が観察された。5月22日稚内7:30 発礼文9:25 着の便では7:57 (ノシャップ岬沖)に2羽が観察された。この個体は大型で脇腹後方が体上面近くまで白く、上下面の白黒のコントラストがはっきりした冬羽に近い個体であり、2羽で北へ向かって飛んでいった。この日はほかにノシャップ岬沖でオオハムと思われる個体5羽が北上しているところが観察された。もう一回は翌日の5月23日礼文16:20 発稚内18:15 着の便で17:49 (ノシャップ岬沖)に北上中の個体2羽が観察された。

#### アビ sp. *Gavia* sp. (図1)

種を特定できなかったアビ科の個体はアビ sp. としたが、これらは5, 6, 11月に6回計342羽が観察された。観察数は南下期で最大327羽(2004年11月30日利尻→稚内)であった。南下期にまとまった大群が観察されたことから、南下期の渡りの最盛期は11月下旬となり、観察数も北上期より多くなった(前回の調査では、最盛期は北上期で5月下旬最大36羽、南下期で11月中旬最大16羽であった。).

#### カイツブリ科

##### ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

2004年3月19日11:20に礼文島香深港で潜水を繰り返す冬羽の個体1羽が観察された。この日は海上沖で波が2, 5~3m程あるやや時化めの日であった。

##### アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena*

2004年3月18日10:35に礼文島香深港で1羽が観察された。この日は海上沖で波が4m以上もある大時化の日で、港内で潜水を繰り返していた。

#### アホウドリ科

##### アホウドリ *Diomedea albatrus*

2004年7月7日稚内10:50 発礼文12:45 着の便で1羽が観察された。11:23~11:26, フェリーの進行方向に向かって右側(北側)の甲板で北側の海上を観察中に、遠くからかなり大型のミズナギドリ目が近づき、フェリーの前を通過したので、左側(南側)の甲板へ移動し南側の海上を観察、その個体はさらに南下し双眼鏡でもかなり小さくしか見えなくなったので、観察をやめまた右側の甲板へ移動した。11:35~11:38, 今度は南側からフェリーの前を通過し北上する個体を小さくしか見えなくなるまで観察した。この個体は、羽裏も含めて全身が黒褐色で、翼が非常に長く、嘴は肌色~ピンク色を呈し、嘴基部周辺は白っぽかったことから非常に若い個体と思われた。この日約500羽が観察され一時は1羽が当個体の近くを飛んでいたミズナギドリ sp. (種を特定できなかったミズナギドリ科の個体)と比較しても翼開長が2~3倍もあるように見えた。飛び方はミズナギドリ sp. と比較すると非常に大きな弧を描いて、左右の揺れ幅も明らかに大きく、かなり蛇行しながら飛んでおり、6回程羽ばたき上昇後帆翔する飛行を繰り返していた。この日はくもりでやや霧っぽく、出発時間前の気温が約14°C, 北東寄りの風約2m/s, 波高は約1mと比較のおだやかな天候であった。

#### ウミスズメ科

##### エトロフウミスズメ *Aethia cristatella*

2004年3月18日稚内7:50 発利尻9:43 着の便で9:36(利尻島鴛泊港付近)と一緒に飛んでいる2羽が観察された。この個体は全身が黒っぽくややずんぐりとして割合小型で、嘴が短くちょこっと付いている感じであり、フェリーと同じ位の速度でしばらく平行して飛び、のちに追い越していった。この日は海上沖で波が4m以上もある大時化の日であった。稚内では港や海岸部では観察したことがないが、冬場、1, 2年に1回程度保護されることがあり周辺に飛来しているものと思われる。

表 1. 1998 ~ 2004 年に観察された鳥類・海棲哺乳類

科	種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アビ	アビ											○	
	オオム					○							
カイツブリ	アビ sp.				○	○	○				○	△○	○
	ミミカイツブリ			▲									
	アカヒカイツブリ			▲									
アホドリ	カイツブリ sp.			○		○							
	アホドリ							○					
ミズヅドリ	ツルカモ						○	○	○		○		
	アカツミズヅドリ							○			○		
	ミズヅドリ sp.				○	○	○	○	○	○	○	○	
ウミツバメ	ハイロウツバメ												○
	ウミツバメ sp.												
ウ	ウ		▲		△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	○▲
	ヒメウ	△○	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	○▲			△	△○▲	△○▲	△○▲
	ウ sp.			○	○	△○	○				△○▲	○	○
サギ	アサギ					△	△						
	サギ									▲			
カモ	スズガモ					△							
	カモ												
	クマガモ	△○	△	△○	△	△	△					△○	△○
	ビロドリキクガモ			△								△	○
	シロガモ	○▲		○▲	△○▲	△○	○	▲			○	△▲	△○▲
	コガモ	△○	△	△○	△							△○	△○
	ウミアサギ	△		△▲	△○▲							○	○
	ハクチョウ sp.					○							
	ガン sp.					○					○		
	カモ sp.			○		○							
カ	オジロシ			△▲			△	△		○			
	オカ			△									
	大型ウ sp.			▲								△	
ハヤブサ	ハヤブサ								△				
シギ	イソシギ					△							
	シギ sp.					○			○				
ヒレアシシギ	アカヒレアシシギ					△○	○	○	○	○			
	ヒレアシシギ												
トウゾクカモ	オトウゾクカモ							○			○		
	トウゾクカモ							○			○		
	トウゾクカモ sp.							○	○	○	○	○	
カモ	ツルカモ										△○		
	セウロカモ				△○						△○▲	○	▲
	オセウロカモ	△○▲	△○▲	△○▲	△○	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲
	ツルカモ	△									△○		▲
	シロカモ	○▲	▲	△○▲	○	△○				▲	△○▲	○▲	○▲
	カモ			○	○					○	△○	△○	△○
	ウミネコ			△○▲	△○	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△
	ミツコビカモ			○	○	○					△○▲	○	
	アサギ								△	△○	○		
	アサギ sp.					○							
	カモ sp.	△		△○▲	△○	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○▲	△○
	ウミスズメ	ウミスズメ					○	○	○			○	○
ルビトウミスズメ		○	△○	○	○							△○	△○
ウミスズメ sp.		○	○	△○	○	○	○	○		○	○	○	○▲
ウミバト					△○								
ウミマアサギ		△	○	△○	○▲		○						△▲
ウミスズメ						○	○	○					○
イトロウミスズメ				○									
コウミスズメ			○	○	○							△○	○
ウ				○	○	○	○	○	△○	○	○	○	○
小型ウミスズメ sp.		○									○	○	○
ウミスズメ sp.			○		○	○	○	○	○	○	△○	○	
アマツバメ	アマツバメ												
	アマツバメ sp.					○	○	○	○	○			
マイルカ	マイルカ						○						
	マイルカ					○	○	○	○				
ネズミカ	ネズミカ					○	○	○	○				
	ネズミカ sp.			○	○	○	○	○					
アサカ	アサカ		○	○	○		○					○	○
	アサカ				○	○							
アザラシ	アザラシ			○	○	○	○	○					○
	アザラシ sp.					○	○						
一	一					○	○						
	一					○	○						

△: 稚内港内 ○: 航路上 (港外) ▲: 利尻 (篤泊・沓形) 礼文 (香深) の各港内 (どこか 1ヶ所の港でも観察した場合印を付した)  
 ※ミズヅドリ sp: 大部分はハイロウミズヅドリまたはルビトウミズヅドリ, ウ sp: ウミウまたはヒメウ, ハクチョウ sp: オオハクチョウまたはコハクチョウ, 大型ウ sp: オジロシまたはオカ,  
 トウゾクカモ sp: トウゾクカモまたはクオトウゾクカモ, カモ sp: 大部分はオセウロカモまたはウミネコ, ウミスズメ sp: ウミスズメまたはルビトウミスズメ, 小型ウミスズメ sp: ウミスズメ以下の  
 大きさ種, ウミスズメ sp: ウミスズメ科の種, 鯨脚類 sp: トドまたはアザラシ

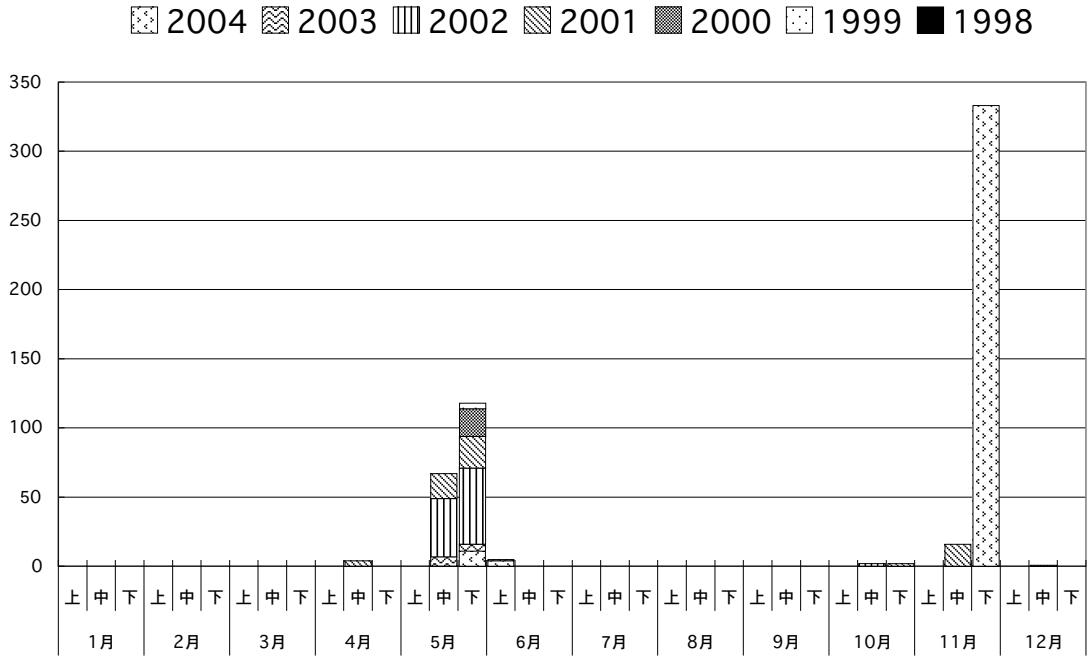


図1. アビ sp. (アビ, オオハム含む).

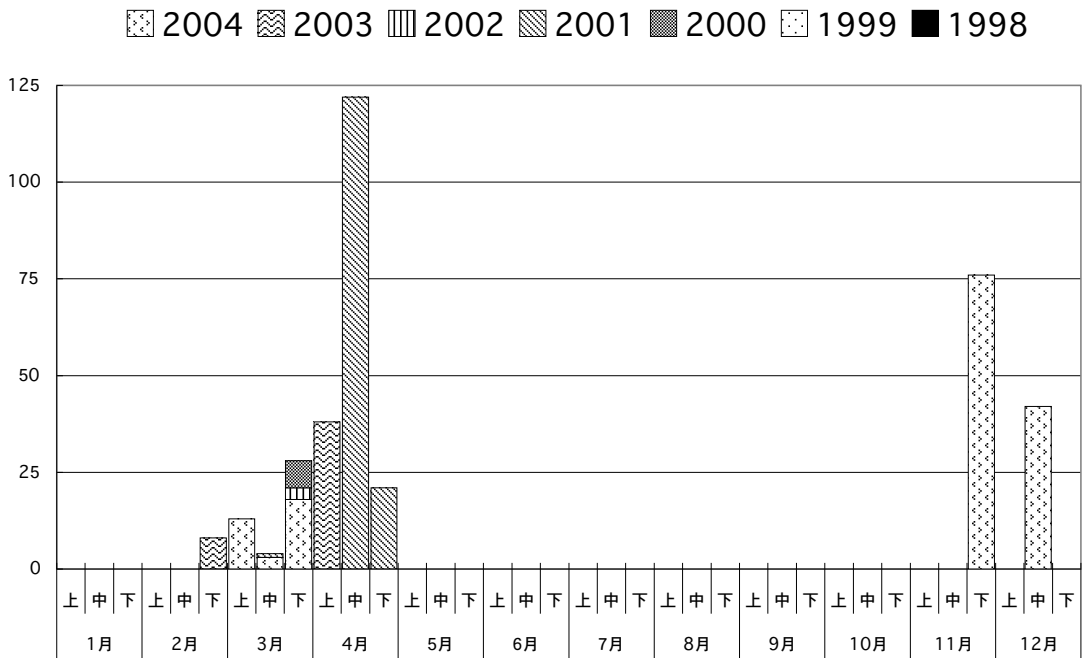


図2. コウミスズメ.

### コウミスズメ *Aethia pusilla* (図2)

3, 11, 12月に7回計152羽が観察された。11月29日稚内7:50発利尻9:37着の便では稚内港で1羽、8:15～9:23(ノシャップ岬沖～鴛泊港付近)の間に南下中の個体75羽が観察された。また、12月15日稚内6:50発礼文8:45着の便では7:52～8:41(航路中間位～香深港付近)に42羽が観察された。11月29日は上記のとおり大時化で、12月15日はべたなごの非常におだやかな天候であった。冬場の調査が少なく前回の調査でも1羽も観察されていないことから、11, 12月のまとまった数の観察により、南下期の渡りの最盛期が11月下旬となった。

### その他

前回の調査で観察された種のうち、あらたな月や場所(港内、港外)で観察された種は鳥類17種、海棲哺乳類で1種であった。

### 謝辞

利尻研究への掲載の機会を与えて頂いた利尻町立博物館の佐藤雅彦氏には、グラフを加工して頂いたほか、本稿のとりまとめに多大なる御助言・御協力を頂いたので、この場をおかりし深く感謝申し上げます。

### 参考文献

- 今野怜・藤巻裕蔵, 2001. 利尻島とその周辺海域における繁殖期の鳥類. 利尻研究, (20): 1-08.  
 小杉和樹, 2003. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.  
 宮本誠一郎, 2004. 礼文島の野鳥. レブンクル自然館. 自刊.  
 杉村直樹, 2004. 利礼航路で観察された鳥類および海棲哺乳類. 利尻研究, (23): 93-128

### 訂正

利尻研究23号94ページ左側下段から6行目に誤りがあったので、ここに以下のように訂正する。

(誤)

『・・・, 南下期が最大(2001年11月19日稚内→利尻), その他は各回1, 2羽で,・・・』

(正)

『・・・, 南下期が最大16羽(2001年11月19日稚内→利尻), その他は各回1, 2羽で,・・・』